

文化プログラム報告

文化プログラム主任
松井 咲子

2014 年度のサマーコース文化プログラムも、学内外から温かい支援をいただいたおかげで無事に終了した。多くのサマーコースの学生が様々な文化プログラムのアクティビティに参加し、日本文化についての理解を深めただけでなく、プログラム講師をはじめとする日本人との関わりの中で日本をより身近に感じる機会となった。

1. 文化プログラムラウンジ (CP ラウンジ)

昨年度は、本館の耐震工事のため、CP ラウンジは総合学習センター内に設置されたが、本年度より再び本館2階教室に設置された。本年は文化助手として3名のICU生(田中杏、築田淳、ノーラン・ビューネス)がプログラムの運営に関わり、サマーコース学生をサポートしてくれた。

ラウンジは午前8時半より午後3時半まで開放し、昨年度同様におにぎりの販売、イベントの申し込みと参加費の支払いなどが行われた他、東京近郊の観光スポットを案内したり、日本映画を上映したりするなど、サマー学生の日本滞在を少しでも豊かにできるよう工夫した。今年は授業開始時間が10分間繰り下げられたためか、昨年度と比べると、おにぎりを購入する学生は少なかったが、休み時間や午後などにはサマー学生が気軽に立ち寄る姿が見られた。

2. 文化プログラムイベント

本年度も昨年同様に様々な文化プログラムイベントが企画され、多くの学生が参加してくれた。昨年度に倣いイベントは火曜日と金曜日に実施することとし、火曜日は学内でのイベント、金曜日には学外でのイベントが行われた。2014年度に実施されたイベントは以下の通りである。

日時	イベント	講師	定員	希望者数	参加者数
7月8日(火)	和太鼓見学	ICU 和太鼓部	30名	42名	30名
7月11日(金)	坐禅体験	観音院 来馬正行住職	26名	47名	26名
7月15日(火)	いけばな	塚本草昌先生ほか	20名	20名	20名
7月18日(金)	歌舞伎鑑賞		47名	47名	47名
7月22日(火) 23日(水)	布ぞうり作り	野川公園ボランティアの先生 (田中すみ先生ほか)	20名	43名	20名

7月25日(金)	茶道	ICU 茶道部	43名	30名	29名
8月1日(金)	ジブリ美術館		55名	41名	41名
8月5日(火)	日本舞踊	水木和歌先生ほか	25名	25名	25名

昨年度同様、今年度も多くの学生の応募があり、ほぼすべてのイベントで希望者数が定員を上回ったため、抽選を行わざるを得なかった。特に坐禅体験、ジブリ美術館、布ぞうり作り体験は定員を大きく上回る希望者がいた。ジブリ美術館に関しては、抽選に漏れた学生に三鷹市民枠でのチケット購入方法を知らせることによって対応した。

イベント終了後のアンケートからは、参加者ほぼ全員が体験を楽しみ、日本文化に触れられたことに感動している様子が伝わってきた。また、体験を通して講師や日本人学生との交流から多くを学ぶことができた様子が見て取れる。今回も多くの講師の方々、またICUの学生に協力をお願いしたが、今後もアットホームな雰囲気の中でイベントを実施できると良いと思う。

上記イベントに加えて、文化プログラム助手の主催で日本映画の上映会、すいか割り体験、野川公園ピクニックが企画され、助手も参加者も一緒になって楽しいひと時を過ごした。

3. 会話ラウンジ

7月中の水曜日(7月9日、16日、23日、30日)の午後には、D館1階ラウンジにて日本人学生ボランティアを迎えての会話ラウンジを実施した。第1回目こそ参加者が少なかったものの、第2回目以降は、毎回20名程度の学生が参加してくれた。レベル別には、初級の学生の参加が多いように見られたが、中級、上級の参加者もおおそれぞれレベルに分かれて日本人学生との日本語での会話を楽しんでいた。ボランティア学生には、初級各レベルでの学習項目を書いて配付し、学生の既習の表現を使って話してもらうようお願いした。時にはクラス単位での参加が見られるなど、会話ラウンジは大盛況であった。ぜひ来年度以降も継続できると良いと思う。

4. 終わりに・今後の課題

今年度文化プログラムを実施する中で気づいたことを以下にまとめたいと思う。

まず、文化ラウンジに立ち寄る学生達の人数が予想よりも少なかったことが気になった。ラウンジは上述のように、おにぎり販売、イベントへの申し込み等の他に、大学周辺の飲食店や週末に日帰りで訪れることができる観光スポットを紹介するなど学生の情報収集の場としての機能を果たしてきた。しかし、インターネットで手軽に情報が得られるようになった昨今では、学生達のニーズも変わってきているのではないかと思われる。今年度は、観光スポットをウェブ上で紹介できる簡単なサイトを作成するなどの試みを行ったが、今後はより学生のニーズに寄り添ったラウンジ作りをしていく必要があると感じた。

また、イベントへの参加を希望しながら定員オーバーで参加できない学生を減らすことも考えていかななくてはならない。文化プログラムの人員等々の諸条件からすぐには解決することは難しいが、何等かの策を練ることは今後の課題の一つになりそうだ。

ともあれ、6週間という限られた時間の中で、サマーコース学生達は、文化プログラムイベントや会話ラウンジに参加等するなかで日本人との交流を楽しみ、日本文化に触れる貴重な経験を得ることができたようである。今回初めて文化プログラム主任としてSCJに関わり、サマー参加学生たちが日本語の授業だけでなく、滞在中の様々な体験や多くの日本人との出会いを通して「日本」を感じ学んでいることが実感できた。この場を借りて、SCJを支えてくださった多くの方々に心より感謝を申し上げたい。